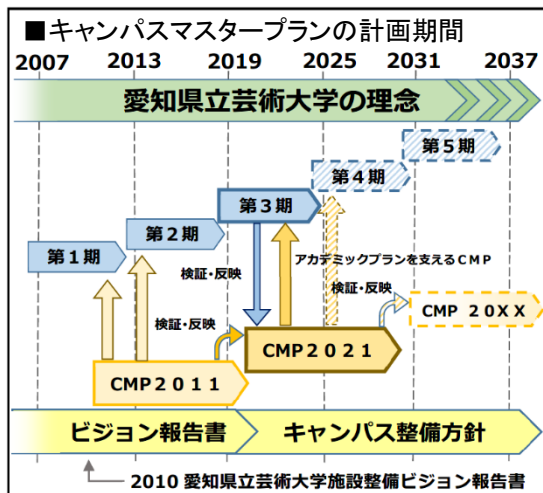


# 1 キャンパスマスタープラン（CMP）2021の基本目標

CMPは、キャンパス整備方針に基づき計画し、その実現によりアカデミックプランを支える。

- ・計画期間は2022年度から概ね10年間。
- ・教育研究環境、建築環境、自然環境の3つの観点から計画的な整備をすすめる。
- ・教育研究環境の観点では、安全性の確保、面積・空間・機能の確保、大学機能拡充を目指す。
- ・未利用施設の活用や学生・教職員の要望の実現にも努める。
- ・建築環境の観点では、整備デザインガイドラインに沿って価値あるキャンパスの継承を図る。
- ・自然環境の観点では、里山や湿地の保全と重要種の保護に留意する。
- ・施設ポートフォリオに基づき整備優先度を定める。
- ・CMPの着実な実現のため、環境デザインマネジメント方針に基づき進捗を管理する。



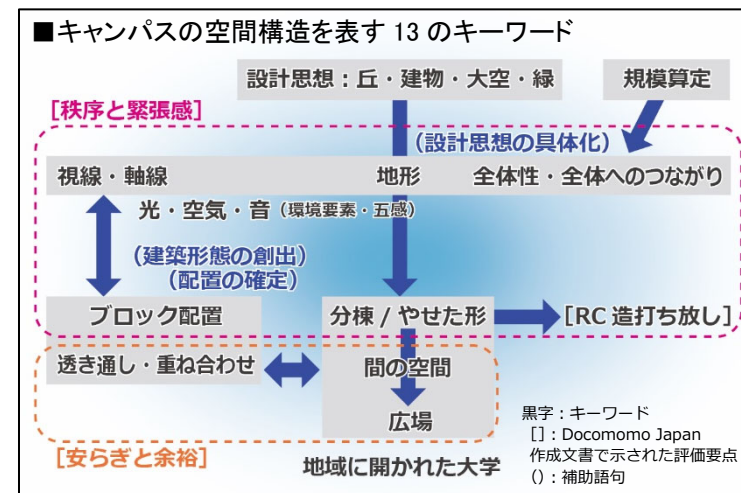
■整備デザインガイドライン

**改修における重要事項**

- ・重ね書き（パリンプセスト）
- ・新旧混濁の回避
- ・色彩における復元と新解釈

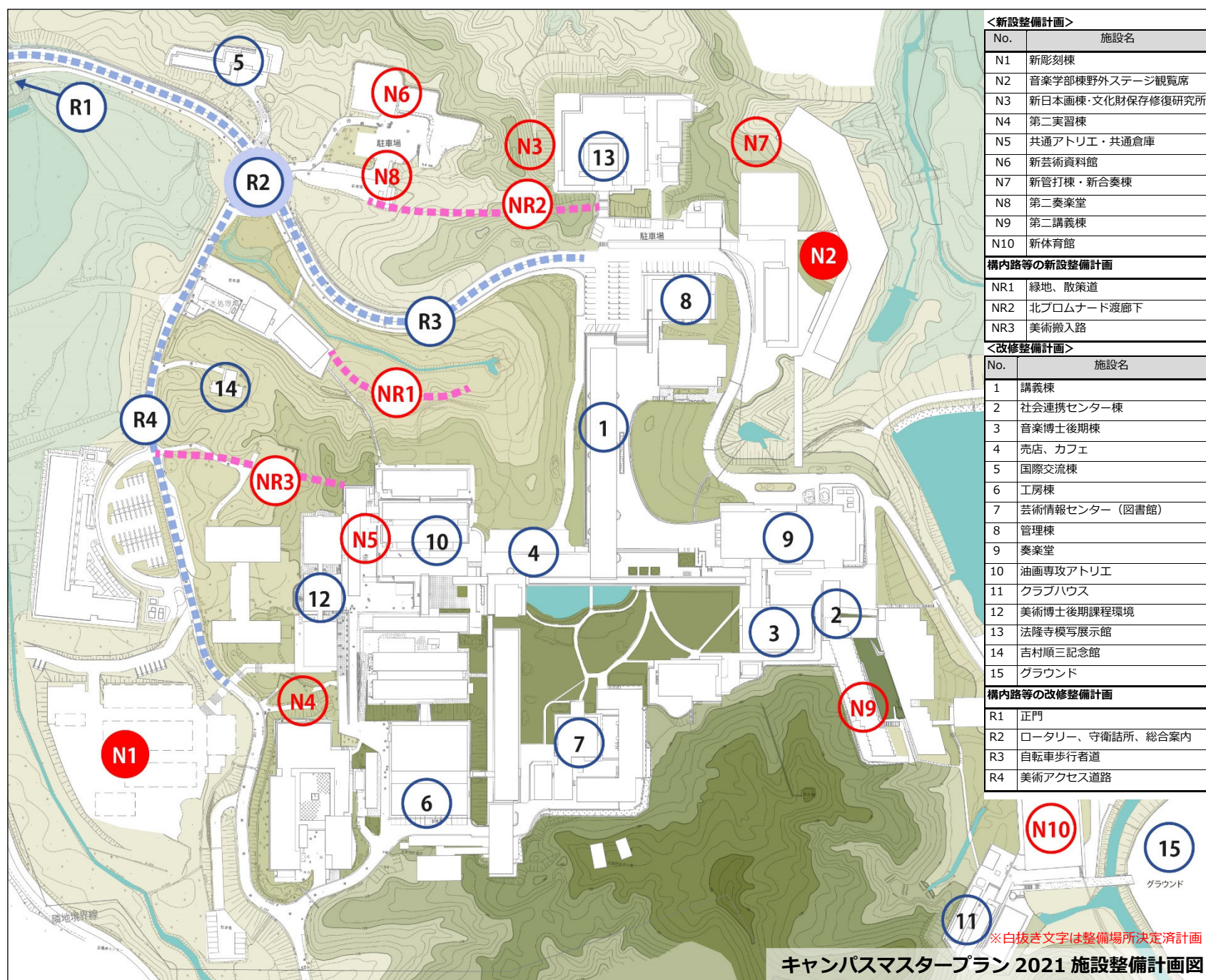
**新築における重要事項**

- ・近似形状の強引な引用の回避
- ・キャンパスの空間構造の継承
- ・新しい建築の独自性と今日性



# 2 CMP2011の評価とCMP2021の計画骨子

	CMP2011の評価	現在の課題	CMP2021の概要
教育研究環境	安全性	耐震改修完了(～2016) 特定天井の解消計画	「特定天井」改修 構内道路の整備 外灯の充実 バリアフリーの拡充
	面積・空間・機能	新棟整備6棟 新設計画1棟 改修整備1棟	未実現計画の実施 新たな整備要望の実現 仮設的建物の解消 駐車場・駐輪場拡充 LED化、省エネ促進
	機能拡充	文化財保存修復研究所 サテライトギャラリー	社会連携、情報センター 国際交流、大学ブランド
	未利用	未利用施設7棟	未利用施設は改修利用 転用困難施設あり
	要望実現	アンケート実施(2018) CMP2011の評価実施	長寿命化計画への反映
建築環境	建築環境の継承は相応 小規模改修で劣化散発	建築環境の継承 改修での劣化防止	「整備デザインガイドライン」遵守
自然環境	動植物の分布状況調査 保全・管理計画策定未済	保全・管理計画未策定 3エリア管理を検討	自然環境保全・管理計画の早期策定
総括	CMP策定が奏功 精力的な新棟整備 耐震改修完了 構成員要望を把握 建築環境は相応に継承 自然環境保全計画未策定	複数の整備計画が未実現 新規の整備要望 交通安全、防犯 バリアフリー 転用困難な施設を認識 構成員要望の反映 建築環境継承、劣化防止 自然環境保全計画未策定	「安全・安心の確保」最優先 長寿命化計画と並行し「施設ポートフォリオ」に基づく計画的整備 アカデミックプラン実現のため大学機能拡充 長寿命化計画で構成員要望を実現 「整備デザインガイドライン」遵守 自然環境保全・管理計画の早期策定



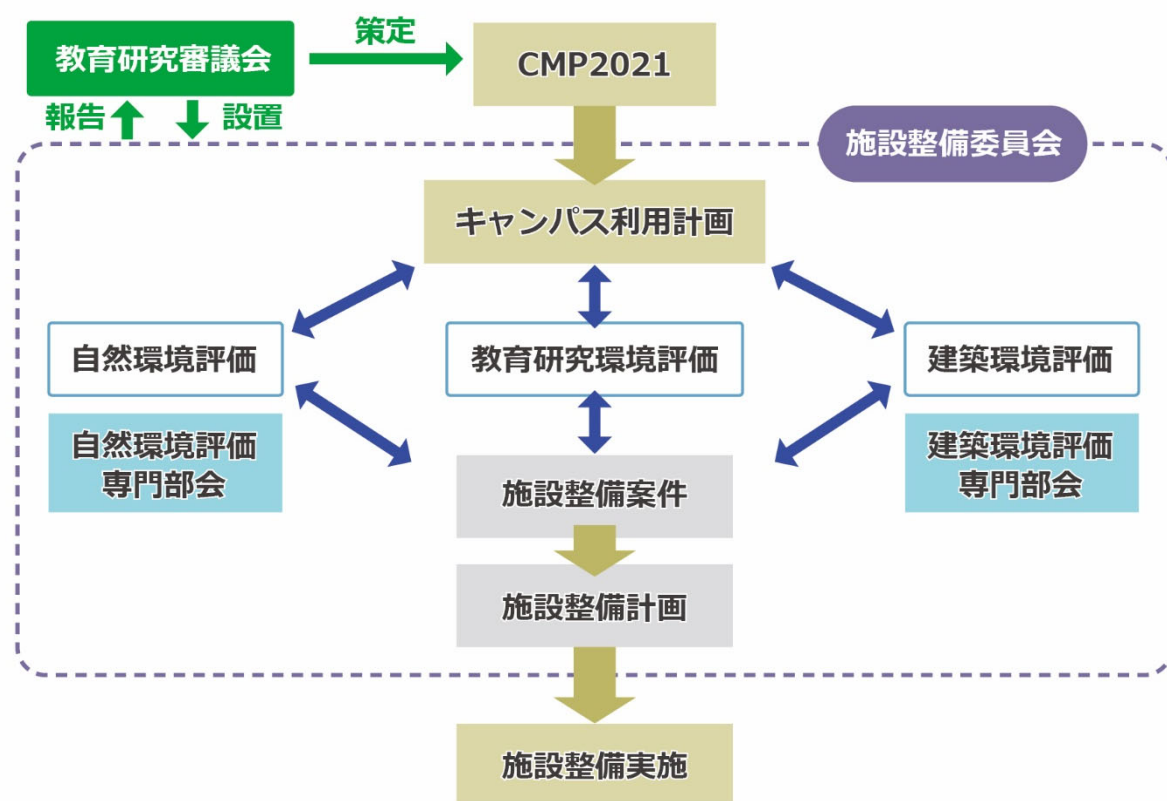
### 3 施設ポートフォリオによる整備優先度

安全性	高	法隆寺模写展示館 13	構内道路、構内外灯 R3 R4 構内環状交差点 R2 バリアフリー整備	-	A 公舎 旧芸術学部棟
面積 空間 機能	中	《別表1》	管理棟 8、クラブハウス 11 美術搬入路 NR3	売店・カフェ 4	
大学機能 拡充	低	社会連携センター棟 2 国際交流棟 5、野外観覧席 NR2	吉村順三記念館 14、正門 R1 緑地・散策道 NR1 北プロムナード渡廊下 NR2	-	
	優先度	高	中	低	-
		教育研究的施設	管理的施設	福利厚生の施設	供用停止施設

#### 《別表1》

<美術学部関連> 新彫刻棟*N1 新日本画棟・文化財保存修復研究所*N3 油画専攻アトリエ 10 第二実習棟（陶磁専攻）*N4 共通アトリエ・共通倉庫*N5 新芸術資料館*N6 美術博士後期課程環境 12	<音楽学部関連> 新管打棟・新合奏棟*N7 奏楽堂 9 第二奏楽堂*N8 音楽博士後期棟 3	<教養教育・共用関連> 第二講義棟*N9 講義棟 1 芸術情報センター（図書館）7 新体育館*N10 グラウンド 15 (*印は新築整備計画)
---	--	---

### 4 環境デザインマネジメントのフロー



## 「愛知県立芸術大学キャンパス マスタープラン2021」について

キャンパスマスタープラン 2011 から 10 年の時が流れ、今日ここにキャンパスマスタープラン 2021 をまとめることができました。本プランの作成にご尽力頂きました外部有識者の方々をはじめ、関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

この 10 年間で本学には新音楽学部棟、新デザイン棟、そして来年度（2022 年度）開設されるメディア映像専攻にメディア映像スタジオ棟が新設されました。また令和 6 年春（2024 年）の竣工を目指し、今年度、新彫刻棟の実施設計を終えています。昭和 41 年（1966 年）開学時の建造物が多く残る本学キャンパスですが、活用できるものは可能な限り活かすべく、現在、県による県有大学施設の長寿命化計画とのバランスも取りながら、如何にして本学キャンパスの魅力を高めていくかが、本マスタープランの趣意となります。

森の中の芸術大学。  
本学キャンパスの背骨となる象徴的な建物である講義棟の北壁には初代学長、上野直昭直筆の「直指天」があります。仙境の澄んだ空気を吸って、仙人とはなれないにしても、せめて天を仰ぐことを忘れるなど、彼は言っています。芸術を志す若者達が天を仰ぎ見るに相応しい、自然と共にある開放的なキャンパス。本学創設時にキャンパス全体をデザインした吉村順三の意図も感じられます。

科学技術の進歩、とりわけコンピューターの登場によって、現代社会は加速度的に変化し続け、世の中はモノと情報で溢れかえっています。人も組織も短いスパンの中での効率と成果、そして評価を求められ、人は自らの立ち位置を見失い、行き場を失っているかのようです。一昨年（2020 年）初めから始まった新型コロナウイルスの世界的パンデミックは、未知のウイルス感染という大きな不安の中、本学にも学生、教職員の命の安全の確保と、芸術教育の根幹である対面授業の実施という矛盾する課題を突きつけました。

0 か 1 かのデジタル的思考ではなく、矛盾を矛盾として受け入れながら、寛容性を持ってより良い現在と未来を考案し創造できるのは人間だけではないでしょうか。

熱く静かに、深く高く！  
芸術大学である本学キャンパスに込めた上野、吉村両氏の思いは、将来のどのような時代においても継承されてゆくべきと考えます。

2022 年 3 月

愛知県立芸術大学学長 戸山 俊樹

